

一葉保育園に於ける廢物利用

記 者

曰く勤勉節約曰く消費節約曰く節約デー、經濟思想の發達につれ節約の宣傳は近時著しく其の聲を大きくしてまゐりました、之を幼兒には解らないとか幼兒だから知らない事だとか云て見のがしてゐて善いのでございませうか、善し悪しは問はず既に前々から保育の實際に廢物利用を實行して居られる二葉保育園を訪れて大に感ずる處がございました。

○ 普通幼稚園の主なる消耗品として、經濟上重きを爲して居る保育(手技)材料が、此處では殆ど廢物利用に依てせられてゐる。

貼紙臺紙、縫取臺紙等は特に分厚な高價な紙を使ふ處を呉服の厚紙、繪はがき、入場券、又厚い紙で出来たプログラム、外國雜誌のしつかりした紙質のものを用ひられてゐる。「古いのですが」とおしやるのを無理に見せて頂いた中に古葉書の裏を墨でぬりつぶし、其處へ三錢切手の中の圓だけ切り抜いたもの

を提灯として貼たものも、外に新しい切手のまわりにある細い紙を貼り方の材料として、お家や、汽車が面白く作られたものがあつた。また布の細い裁ちくづは、年長兒によつて結びつなげられ、それが又三あみにされて、繩飛びのひもや、汽車ごっこ、お馬ごつこのひもになつて居る、これらは他人によつて既に造られてあるものや、新しい布をたッ切た丈のものにくらべて、自分達で造たと云ふ親しみのある爲か比較的亂棒な子供達(勞働者の子女と云ふ點で)の群にも、ぞんざいな扱ひを受けてゐない。

年長兒の室で數人の群が坐て何か爲てゐるのを見るときこれは洋服の裁ちくづの小さい破片を、チヨキチヨキとぎざんでゐる。「近頃服の裁ちはぢを頂きましたので剪紙の代りに致して居ります」との御説明であつた、なほ此小さい手によつてぎざまれたこまかいくづは綿の代用として乳兒部の赤ちやんのお布圍になつてゐる。その布圍のかわも裁ちくづの大き

いのを選んで保姆の方々が膽念にはぎ合されたものである。「普請場からあつめて頂いたのです」と仰云る木片で恩物積木では出来ない複雑なおもしろい、思ひ思ひの建築が建てられたりくづされたりして居る。「お芋の御飯にしませう」といふ先生のお聲と一處に可愛いたくさんの足音がローカにするので、とみると大きい竹籠に薩摩芋を入れて小さい人達が皆で先生の後からかついて来る。うすべりを敷いて圓く坐てまな板と皮むきと鉋釘を先生が持て來られると代り番に順に皮むきや大きい片を小さく切る事をしてゐる。「お芋の御飯だね」と嬉しさうな笑顔と笑顔が交はされる。「教會から感謝祭の野菜を頂きましたから」と保姆の方の御説明であつた。

小菊やコスモスが思ひのまゝに咲き満ちた植込の低い垣根から少し隔つた處で二三人の男兒の群が、汚ない粘土をこねてゐる。「自由遊に粘土をお使はせになりますか」と伺へば、「否え、粘土と云て特別に與へるのではありませんが、此處の地質が粘土である爲に子供達は自分で材料を掘り出してあゝして遊びます」とお答に見ると、一人の男の子が棒きれで一生懸命地面を掘てゐる。「出來たよお出で」掘り出

された粘土は子供同士で分けられて自然と粘土製作が行はれてゐる。

○
なほ同園では、都市の發達や住民移動の關係から數年前に比して收容兒數の減じた爲に其の園舎の一部を改築して父なくして路頭に迷ふ母子の爲に「母の家」と云ふのを設計せられ本年四月から實施せられてゐる。

一間の廊下を隔て、兩側に四疊半が四間と六疊が一間づゝあり、一室毎に押入れ水流したゝきの土間一疊が附屬してゐる、一室一戸になつて居り水道は共用(母の家の中だけで)で電気瓦斯等のこりなく整てゐる。同園徳永氏は語らる「母の家はあながち細民には限りませんが、夫が海外へ出てそれきり音信も絶え消息もしれずと云て今まで働いた事もなく急に母と子丈になつて途方にくれる者又は月末になつて収入の全部を持たまゝ夫が行方知れずになり老人や子供をつれて家は追はれるし行く處がないと云て俄に働かうとしてもその道もわからず女一人の腕で困てゐる母等で、此近くに住んでゐるのではなくともそれからそれへと人傳てやら又社會局あたりのお世

話で入れる事もあります。それらの母達にそれぞれ職を探して就職致しませば留守の間は幼児乳兒は勿論本園であづかります。母達の職業は種々でございますが病院の繻帶洗、派出婦、庭掃除、小便等で針を持てますものは家で人仕事をしたり、傍らミシンを習つたり編物をしたりするのもございます。唯今は一室だけ空いて居ります。全部で九家族二十人以上で皆職について外へ働きに出て居ります。職につきまますまではこちらで當分世話を致しましてその後には家賃(三圓五十錢と四圓)を取る事に致して居ります。

一般幼稚園の對社會活動として爲さるべき多くの仕事の残されてある現在、二葉保育園の園舎を活用せられてこの「母の家」の事業は有益かつ有力なる第一歩である事を信じる。(一一、一五)

○坪内逍遙氏の家庭兒童劇

家庭用兒童劇として氏の研究せられしもの數番が十一月二十六日有樂座に於て上演された。

クリスマス、お正月、と家庭的團樂の機會を目前にひかへての此新しき發表は喜んでむかへられた。

なほこの試演前後三回に渡り同氏の、「家庭教育と文藝」と云ふ題目の下に兒童劇の歴史、扱ひ方等に就ての講演が早稻田大學講室に於て催された。

聽講者は婦人を主とし、母姊、學生、教師等多くあつた。

家庭の中にも火鉢の灰をかきならしてゐる素晴らしいレオナルドがある。千守唄をうたひお伽噺をかきかしてゐる素晴らしいゲーケがある。其暖かな涙で。實踐理性の何物であるかを知らしてゐる素晴らしいカントがある。(「婦人解放よりの解放」より)